

施工業者様へ

施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

 この絵表示は、しては
けない「禁止」の内容です

 この絵表示は、必ず実行して
いただく「強制」の内容です

警告

湯水を逆に配管しないでください。

禁止

水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

給湯に蒸気を使用しないでください。

禁止

器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。

給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。

禁止

85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

寒冷地仕様の場合

水抜きつまみは水抜き以外の目的で開けないでください。

禁止

水抜きつまみをいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

加工および接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。

禁止

器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓(給水・給湯含む)には絶対に通電しないでください。

禁止

通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

注意

器具に強い力や衝撃を与えないでください。

禁止

器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

めっき部品は、ぶついたり落したりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。

禁止

めっきの表面が割れて、けがをすることがあります。

他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。

やけどのおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。

禁止

配管接続部をテーパねじに接続しないでください。

禁止

めっきの表面が割れた場合は使用しないでください。

禁止

止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。

注意

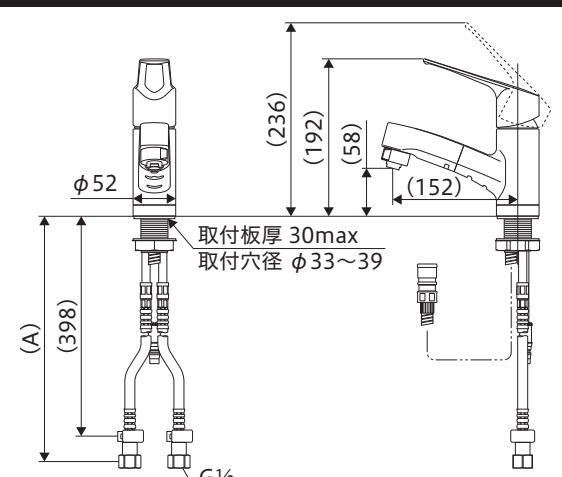
小型電気温水器(即湯器)等に給湯ホースを接続する際は、ステンフレキ管等を介してください。

高温の熱により給湯ホースの寿命が短くなり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。

水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

寸法図



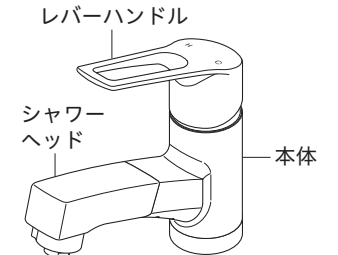
A部寸法：逆止弁付 429／逆止弁無 416

取り付け前に

- ① 使用水圧〔A=（給湯器の最低作動水圧）+（配管圧力損失）〕
 - (1) 瞬間給湯器との組み合わせ（設定条件 水温：25℃ 給湯器温度調節：高温 吐水温度：42℃ ハンドル全開）**【比例制御式】最低必要水圧：A+0.10MPa（動水圧）、最高水圧：0.75MPa（静水圧）**
 - (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ**（給湯・給水圧力）最低必要水圧：A+80.0KPa（動水圧）、最高水圧：0.75MPa（静水圧）**
- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯器が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯器の給湯温度は、安全のため60℃以下の設定をおすすめします。
- ⑦ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は改造(加工および接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ シャワーホースを伝って水がキャビネット内に浸入するおそれがあります。水受けトレイの設置をしてください。
- ⑪ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け完成図と各部の名称 / 分解図

取り付け完成図と各部の名称



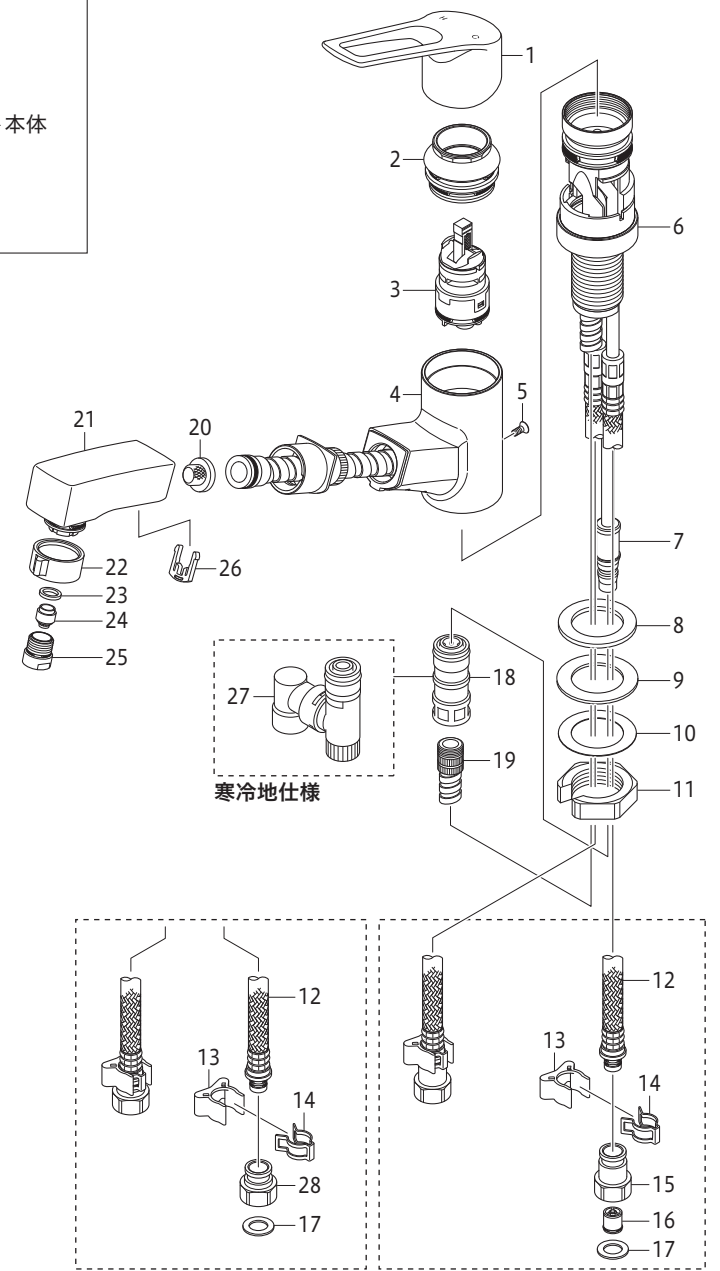
レバーハンドル

シャワーヘッド

本体

分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。



1 レバーハンドル

2 固定ナット

3 カートリッジ

4 吐水口

5 六角穴付ねじ

6 本体

7 プラグ

8 シートパッキン

9 パッキン

10 スリップ板

11 割付ナット

12 ブレードホース

13 保護キャップ

14 クイックファスナージョイント

15 逆止弁

16 パッキン

17 カブラー

18 シャワーホース

19 ストレーナ

20 シャワーヘッド

21 シャワーフェイス

22 パッキン

23 泡まつ器

24 吐水口金具

25 クリップ

26 水抜き付カブラー

27 ジョイント

28

寒冷地仕様

逆止弁無仕様

逆止弁付仕様

取り付け手順 1

1 給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内の清掃をしてください。

2 止水栓(別売)の取り付け

給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。水受けタンクまたはトレイを設置する場合は、水受けタンクまたはトレイの寸法をご確認の上取り付けしてください。
止水栓はストレーナ付が最適です。
寒冷地用は水抜き栓付き止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付止水栓

水抜き栓付止水栓

止水栓(別売)

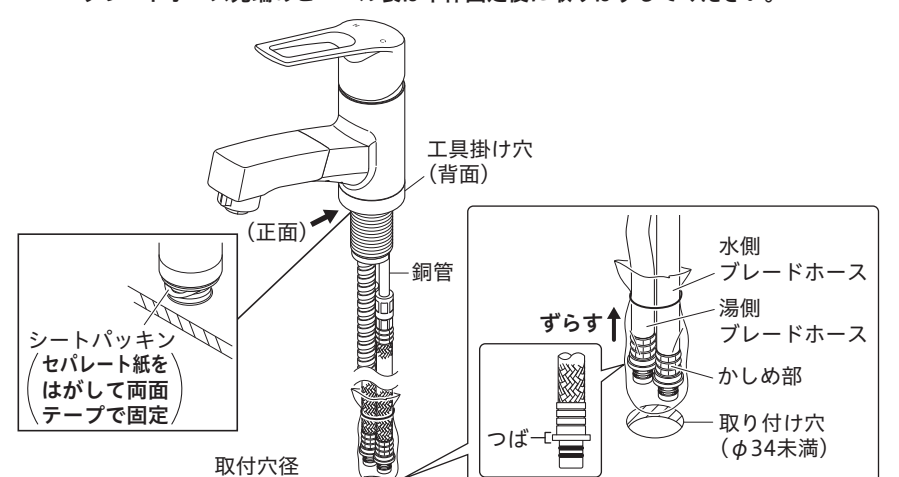
止水栓(別売)

3-1 本体の固定

① 取り付け穴周囲の汚れを取り除いたあと、本体に貼り付けてあるシートパッキン下面のセパレート紙をはがし、湯水ブレードホースの先端にビニール袋が付いた状態で、工具掛け穴が真後ろにくるように本体を差し込みます。(工具掛け穴の反対側が正面です)
ブレードホースが取り付け穴を通しにくい場合(取付穴径の目安：φ34未満)は、湯側ブレードホースのつばを水側ブレードホースのかしめ部までずらして取り付け穴に差し込んでください。

【△注意】セパレート紙は必ずはがしてください。セパレート紙をはがさず固定した場合、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
はっ水コーティングが施してあるため、シートパッキンが本体からはがれやすくなっています。シートパッキンが本体からはがれた場合は、本体底面にはみ出さないように貼り直してください。カウンターに貼り付いた場合は、シートパッキンがはみ出さない位置に本体を差し込み固定してください。シートパッキンがずれたり、はがれた状態で取り付けますと、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

【お願い】・取り付け穴にブレードホースが2本同時に通しにくい場合、必ず、湯水どちらかのブレードホースのつばをもう一方のブレードホースのかしめ部までずらした状態で差し込んでください。この時、ブレードホースと銅管は無理に曲げないでください。
・ブレードホース先端のビニール袋は本体固定後に取りはずしてください。



工具掛け穴(背面)

(正面)

銅管

水側ブレードホース

湯側ブレードホース

かしめ部

取り付け穴(φ34未満)

取り付け穴に通しにくい場合

シートパッキン(セパレート紙をはがして両面テープで固定)

取付穴径 φ33~39

つば

